

2010年末から11年初頭にかけて、マグレブ諸国で起こった民主化の動き(「アラブの春」)は、シリアにも「民主化」の風を吹き込んだ。2011年後半以降、反体制派勢力の結集組織「シリア国民評議会」を中心に、民主化を求める大規模な反政府運動が広がっている。ここでの問題は、他の「アラブ春」諸国とは違って、反政府運動に外国の諸勢力がかかわっている点である。彼らは「自由シリア軍」を結成し、政府軍と戦闘を繰り返している。シリアは「内戦」状態になっている。この点で、他国の「アラブの春」とは違った文脈での「民主化＝反政府」運動となっている。その原因は何か。

2011年7月、「西イスラム・パイプライン (Islamic Pipeline) : 建設費 100 億米ドル」建設にイラン・イラク・シリアが合意した。このパイプライン建設計画は、イランの南部パースで産出される天然ガスをイラク、シリアを通り、地中海を抜けてギリシャまで通す、全長 5,000km のパイプライン敷設計画である。

データ・ソース

(1) 'Islamic pipeline' seeks Euro gas markets, UPI. COM, Published: July 25, 2011 at 6:04 AM, ASALOUYEH, Iran, July 25 (UPI) -- Iran, Iraq and Syria say they're set to sign an official contract to construct a natural gas pipeline connecting Iran's South Pars field to European customers.

Iran's state-run Press TV announced that a deal between Iran's interim Oil Minister Mohammad Aliabadi and his Iraqi and Syrian counterparts -- the biggest of its in the kind in the Middle East -- would be signed at Asalouyeh, Iran.

http://www.upi.com/Business_News/Energy-Resources/2011/07/25/Islamic-pipeline-seeks-Euro-gas-markets/UPI-13971311588240/ (2012/12/04)

(2) Syria's Pipelineistan war. This is a war of deals, not bullets."Aljazeera"

Last Modified: 06 Aug 2012 13:44

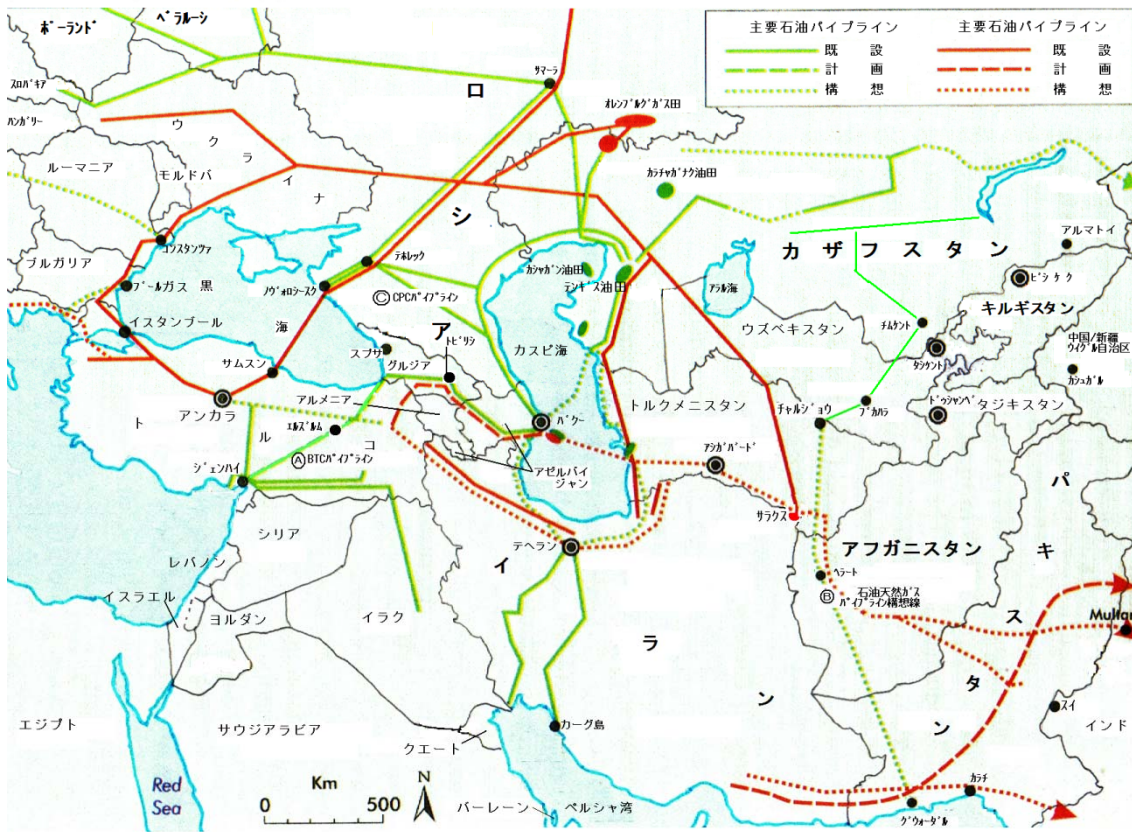
<http://www.aljazeera.com/indepth/opinion/2012/08/201285133440424621.html> (2012/12/04)

この計画が浮上する前のパイプラインの状況は以下のとおりであった。イランの天然ガスパイプラインはトルコ国境 Bazargan まで来ている。このパイプラインをトルコ国内パイプラインと接続できれば、イランは天然ガスをヨーロッパへ輸出できる。またイラクは、パイプラインをトルコ領内のパイプラインと接続できれば、地中海に面した石油積出港に石油を送ることができる。トルコ・イラク・イランは2012年7月ごろまで、こうした利害関係を共有していたので、三国は良好な関係を保ち続けてきた。ところが、「西イスラム・パイプライン (Islamic Pipeline)」が開通すると、トルコの自国内を通るパイプラインの重要性がうすれる。これにトルコは「不快感」を抱いたのではないか。なぜなら、この計画の成功は大消費地ヨーロッパ¹への石油・天然ガス供給の領内通過というトルコのもつ「権益」の侵害となり、トルコのプレゼンス²が低下することは明らかである。この「西イスラム・パイプライン (Islamic Pipeline)」計画で急浮上してきたのがシリアである。

周知のとおり、シリアは地中海に面する唯一の産油国で、石油輸出港 Banais をもっている。国

内敷設のパイプラインはすでにイラクとは連結している。この計画が実現すれば、イラク、イラン産の石油天然ガスの「安定的」な欧州への供給・輸出が可能となる。制裁下のイランにとっては極めて有利であり、イラクも同様な「恩恵」³にあずかることができる。この事情が、天然ガス大消費地である EU 諸国への輸出手段として、このイスラム・パイプライン計画に 3 国が合意した理由であろう。

図 カスピ海沿岸地域の石油・天然ガス輸出主要パイプライン網



こう見ると、各国はこのパイプラインの成否に大きな利害関係をもつ。そこで、それぞれの思惑・利害からシリア・アサド政権の独裁打倒・民主化支持の「アラブの春」に利害関係諸国はのったのではなかろうか。だから「自由シリア軍」に武器や人員の供与までして、支援しているのではなかろうか。

応援の構図は以下のとおりだが、各国の関わり方⁴をパイプラインの関係から見ると説明がつく。反アサドの諸国はトルコ・サウジアラビア・カタールであるが、計画を阻止できれば石油およびパイプラインのプレゼンス低下を防止することができる。これに西側諸国とりわけアメリカとその同盟国イスラエルが加担している。レバノンは反アサド・親アサドで二分された状態。ロシアは軍事戦略的に地中海への展開可能な軍港を保持（トルコファントムの撃墜はシリア政府軍ではなくロシア艦船からのものという情報のある）しているため親アサドの立場に立つ。また直接の利害はないが、中国はシリアへの「内政干渉」が、人権問題との関連で、自国波及することを恐れているのではないかと。

1 2009年には寒波襲来時にはガス圧低下によって、欧州各国は大混乱に陥った。ブルガリアでは黒海沿岸地域を中心に、少なくとも65,000世帯で暖房が使えず、学校では教室内がマイナス18℃以下になった例も報告され、約100校が休校した。セルビアでも学校閉鎖が相次いだ。ボスニア・ヘルツェゴビナではガスの備蓄がゼロで、首都サラエボでは約10万世帯が暖房なしの状態となった。

2 ナブッコ・パイプライン (Nabucco) は、トルコの首都アンカラ南部のAhiözüを起点とし、ブルガリア、ルーマニア、ハンガリーを経由してオーストリア・ウィーン東部のバウムガルテン・アン・デア・マルヒまで、全長3,893kmにおよぶ長大なパイプラインである。2010年3月トルコが最終批准。

3 地図を見るとわかるが、イラクのペルシャ湾への出口は漏斗の口のようになっており、その距離は10マイル(16キロメートル)あるかないかである。しかもその先のホルムズ海峡はイランの鼻先で政治的に不安定な海峡である。

4 シリア反政府運動に外国の諸勢力がかかわっている点についての補足説明

AFP通信電子版 2012年6月25日

北大西洋条約機構 (NATO) は24日、シリアがトルコ軍機を撃墜したことについて、加盟国トルコの求めに応じて26日に会合を開いて協議すると発表した。

シリア政府はトルコのF4ファントム (Phantom) が22日に領空を侵犯したため撃墜したと発表していた。NATOの報道官は、北大西洋条約第4条の規定で締約国は自国の領土保全、政治的独立または安全が脅かされていると認めたときにはいつでも協議を要求できると説明した。・・・

トルコのレジェプ・タイップ・エルドアン (Recep Tayyip Erdogan) 首相がシリアのバシシャル・アサド (Bashar al-Assad) 大統領政権による反体制運動の弾圧を厳しく批判していたことから、トルコ軍機撃墜前から両国関係は悪化していた。

<http://www.afpbb.com/article/politics/2886070/9168994> (2012/12/30)

坂本卓 「トルコ軍機『撃墜』事件の謎」 2012年7月29日 22:39 アジア・プレス電子版

トルコ軍機がシリア沿岸部で墜落した事件が、にわかにはミステリアスな展開を見せ始めている。さまざまな分析や憶測がではじめている。・・・

まず、事件はNATOがシリアに介入するための口実づくりではないか、という工作説だ。シリアをわざと挑発し、ゆさぶりをかけ、発砲を誘えばNATO介入の明確な口実ができる。撃墜されてしまったのは、その想定外の事態であったとするものだ。・・・

シリア沿岸部のタルトスにはロシア海軍の基地がある。低空飛行をしていたトルコ軍機は、周辺海域にいたロシア海軍の艦船によって迎撃された、というのだ。・・・

また、シリア軍の対空砲を操作したのはロシア軍顧問だった、という説もある。

戦闘機を撃ち落したのは、ロシア製のパーンツィリ S1で、それを操作していたのはロシア軍顧問だったとするものだ。

<http://www.asiapress.org/apn/archives/2012/07/29223959.php> (2012/12/25)

The Voice of Russia 電子版 27.06.2012, 14:16

トルコ軍機が対空ミサイルシステム「パーンツィリ」によって撃墜された可能性もあります。このシステムは目標の距離に関わりなく自動で稼働します。ミサイルの射程距離は12キロ、対空砲火の射程はおおよそ2キロです。トルコの「ファントム」は、対空砲火によって撃墜されました。いか

なる小口径の対空砲火も射程範囲は 2.5 キロ以下、射程高度は 1.5 キロ以下です。そして「パーンツイリ」をはじめ対空防衛装置は海岸に沿ってではなく、そこから内陸に 1 キロ以上離れたところに置かれています。(ファントムは地中海中から引き揚げられた：涌井注記)

今回の事件は、それ以前に起こっていた背景を離れてみることは出来ません。先週シリアのミグ 21 型戦闘機がヨルダンに不時着しました。このパイロットからトルコ、米国、イスラエルは、シリア空軍が利用している暗号をすべて知ることができたでしょう。これは特に他の国の航空機が問題なくシリア領空に侵入することを可能にしたのです。・・・

ただ、シリアの防衛能力を試すような動きはおそらく今回が最後ではないだろう。

http://japanese.ruvr.ru/2012_06_27/fuantomu-saigo-no-hikou-no-nazo/ (2012/12/25)